

会議録（令和6年度 第1回 江府町図書館協議会）

日時：令和6年5月23日（木） 10時～12時

場所：江府町防災・情報センター（愛ベルこうふ）

2階 研修室

<会議出席者>

【委員】8名（欠席者 1名）

会長：前川仁三夫 副会長：森田哲也

委員：松田暢子 竹田真知子 篠村知子 山本育朗 奥田尚子 小林隆志（県立図書館）

【事務局】7名

図書館：（館長）宇田川恵理

（職員）長岡圭子 加持谷智子 加藤恵梨香 篠田信子 梅林恵理 松本幸江

1. 図書館協議会参加者自己紹介

（上記出席者参照）

2. 報告

（1）江府町立図書館の現況について

○令和5年度江府町立図書館運営及び利用状況について

（事務局）

- ・令和5年後9月より定期休館日を設定。職員のシフト状況が改善。
- ・昨年度資料費予算額205万円、今年度は、駅前本屋からの購入を見込み250万円。
- ・職員数が前年より実質1名減での運営で、除籍作業などに影響が出た。今年度は1名増。
- ・新規登録者77名 個人貸出約400冊増 児童の貸出は減少。大人の貸出が40代～70代で増加。文学中心だが、新書・実用書などの貸出も増えている。絵本が全年代で利用されている。若い世代に図書館への関心を持ってもらうことが課題。

（事務局）利用者からの本のリクエスト・レファレンスが増えている。貸出にはいたらないが、絵本コーナーで家族連れで遊んだり、机で勉強をしたりする方もおられ、居場所としての図書館が認知されてきている。展示の本にも興味を持っていただいて、貸出につながっている。

●図書館運営及び利用状況についての意見交換

（事務局）子供が借りる本が少なくなったというのは、YouTubeなどの影響が大きいのでは。40代以上の利用が増えているというのは嬉しい。絵本コーナーでファミリーが遊んでいたりと、若い世代が集まってくつろいだりしている姿をよく見かけるようになったので、居場所としての図書館が生きてきているなと感じている。

（委員）打ち合わせに使わせてもらったりするが、時間を長く過ごすのに、飲食がOKというのがすごく大きい。駅前本屋についてはいつ頃オープンするのか。

（事務局）当初は今年度オープンの方で動いていたが、具体的にいつ頃できるのかなどまだ未確定。計画自体は走り始めているが、運営者や工期などはまだ決まっていない。

（委員）資料費も増、利用も増え良いと思う。子供については全体的に人数が減っているので、難しいところではあるが、バスに乗るために来る子への工夫はできるのではないかな。司書も入ったので、図

書館では借りないが、学校で借りているのかもしれない。

(会長) 図書館の展示方法が、非常に工夫されているなど感じている。

(委員) 飲食ができるというのはすごく良いことだと思うが、どこでもできるというのが、やや心配。スペースを区切るとかの工夫をしてもいいのでは。

(事務局) 今のところ本が汚れるなどのトラブルはない。中高生を中心に2階での飲食のニーズがあり、全体を職員が管理することが難しいので、全館可能ということにしている。

(委員) 開館日数が減っているのに、貸出が増えているのは良いことだと思う。コロナ前と比べて今がどういう状況にあるのかが気になる。コロナ後、利用者が減って元に戻らないということがどの図書館でもある。大事なのは、図書館に行けば、必要な情報を手に入れられるという認識を多くの方に持っていただくことで、図書館に対する信頼を上げていくことだと思っている。

(会長) 図書館は、安心した情報を得られる場所であるということが、地域に理解される必要がある。大事なことである。

(委員) 一番良いのは、居場所として町民の認知が高まったというところ。展示やイベントも利用につながっているのではないか。町民が図書館を頼りにするようになっていけば貸出し冊数など増えていくと思う。今のやり方で続けてもらえば、予算にもつながっていく。

(会長) 大人向けの講座など高齢者が集まることができるようなことも、ぜひ工夫してほしい。

○令和5年度江府町立図書館行事・展示について

(事務局) 令和4年6月から、総合健康福祉センターと本庁舎で、まちかど図書館を始めている。利用は増えている。利用者は、健康福祉センター本庁舎ともに職員が中心だが、たまたま来られた町民の方が借りられることもある。また、赤ちゃん健診やフッ素塗布の日に本を提供することも福祉センターと連携することで可能になった。定期的におはなし会を行っている。繰り返し来て下さる方が増えている。ものづくりクラブも行っており、小さな子どもでもできるものを選んでいく。

大人むけの講座を増やしていくのが今後の課題。また、学校司書の研修を単町で持つことが難しいという悩みがあり、学校図書館司書研修会を南部町立図書館と共催でおこなっている。他町にも参加を呼び掛けており、今年度は日吉津図書館が会場となっている。

展示については、福祉保健課と連携した展示、来館者参加型の展示、住民作品展示も行っている。また、町内のイベントが一覧で分かるよう、イベントチラシを掲示するコルクボードを設置した。

●令和5年度江府町立図書館行事・展示についての意見交換

(会長) 展示などから、職員が住民の動きをよく見ているなど感心した。イベントボードで町内の行事が案内されていることがもっと認知されていたら、お互いに行事がやりやすくなっていくのではと思った。図書館に行ったらスタッフと話しができて気分転換できるといった場所でもあってほしいと思う。

○奥大山江府学園図書館からの報告

(学校図書館) 令和6年度は、令和5年度の同時期と比べ、貸出が増えている。本を貸出していない生徒には担任が働きかける取り組みを続けている。両方の校舎の学校図書館が連携したイベントを実施している。また、校内研修にも司書が所属し参加している。

(学校図書館) 今年はCM動画や図書館のホームページを作る予定。図書委員にも参加してもらいたい。

(委員) 鳥取県の読書統計調査の結果が出て、問題になったのが不読率が上がっていること。今後どうし

ていくかは課題。先生と状況を共有して働きかけているのはすごいと思う。

3. 協議

○令和6年度図書館事業計画について

(事務局) 資料と情報で住民の健康で文化的な生活を支える・住民にとって居場所となる・子どもの成長と子育てを応援するということを3つの柱として事業計画を考えた。資料の充実については、高齢者や障がいのある方のバリアフリー資料の充実と、子ども世代への資料提供を意識していきたい。CDなど音声資料の収集も検討中。それから市民のニーズをともかく大事にしていきたいと思っている。子育て世代の居場所・生涯学習の場・住民の課題解決の場に図書館がなるということを周知していく方向で頑張っていきたい。大人向けの講演・講座については、地域おこし協力隊として1名司書が配属されているので、その活動と連携して企画していきたい。

(会長) スタッフのファシリテート能力が問われており、その点を意識していくことがコミュニティ図書館として大切ではないか。

○備蓄倉庫内部改修工事について

(事務局) 備蓄倉庫内の壁をとり1室にする。ロッカーで一部仕切って、スタッフルームを作る予定。

書庫内には可動式書架を導入し、セミオープンでの使用も検討中。11月完成予定。

(委員) 最終的には大きさが足りないと思うものなので、できるだけ容量は増やして設計すべき。

(会長) 現在の資料は十分入るのか。行政資料も保存してほしい。

(事務局) 現在の量には対応できる。行政資料については、役場と検討したい。

(委員) 行政資料については、役場にも書庫があるので、図書館においておきたいものを選んで保存することもできる。

(会長) 役場では閲覧がしにくいということがある。

(委員) 書庫の中に一般の人が入っている状態が、死角になってしまうのが気になる。閲覧についても密閉したところで資料を見てもらうのはよくない。紛失の問題もある。

(委員) セミオープンにした場合、職員の手が取られないことはメリットだが、一点ものの貴重品は絶対に置かない。資料を守ることも図書館の役割。見せる物と守る物を分けて考える必要がある。公文書を置くのであれば、確実に守る必要がある。

(会長) 個人情報に関するものというわけではなく、決算書・予算書をまとめてみたいと思ってもここにはない。決算書や予算書はいつでも見られるようにしておいてほしい。

(委員) 荷物を出しやすいよう、入口の大きさと、除湿器など湿気予防について考えておいてほうがよい。

(委員) 温湿度管理ができる設備を入れてもらうということで検討したらよい。

○江府町立図書館の在り方について

(委員) 図書館でも工夫されているが、子どもの読書については、読み聞かせボランティアとして読書活動について少しでも貢献できれば良いと思っている。

(委員) 少ない人数だから、対応できることは対応するというスタイルでやってもらえばよいと思う。

(委員) 問題を読まずに答えるという生徒の姿を見ると、学校へ上がる前の子どもや保護者さんへの働きかけを期待したい。

(事務局) 就園前の子どもさんを対象にした、「じゃりんこ」を通じて読み聞かせ等しているが、子どもがどんどん減ってきている状況はある。保育園との連携も大事にしていきたい。

(委員) 授業で郷土資料を使う場合、内容はだいたい決まっているので、郷土資料に関するパスファインダーがあるとよいと思う。

(会長) 学校とも連携して、郷土資料として図書館でぜひ整備して行ってほしい。

(委員) 町内に家はないが、こちらに帰ってきて何かしたいという方もあるので、声をかけてみると何かいい形になるのではないかな。子どもの読書については、日野町図書館は、子育て支援室とも連携している。親子連れで遊びに行ける場所が求められている。

(委員) 図書館との関係人口を増やすことが大事。ブックスタートの本を渡すときに、図書館のパンフレットを渡すなどはどうかな。学校向け郷土資料については、デジタルパスファインダーという方法もある。

(会長) 今あるものを提供していくということではなく、自分たちで新しいものを作り出していくということが必要ではないか。学校での取り組みを、図書館でも同時に配信するなど情報提供をしたらお互いの活動を高めあえるのではないかなと思う。

(委員) ようやく図書館としての体裁が整ってきた。いまの活動を続けて行ってほしい。現在、文化協会など地元の各種団体の居場所がない。1 階の部屋に、団体の資料を置くロッカーを設置できないか。そこを中心に活動ができるので、郷土資料も集まってくる。今回の書庫の整理をきっかけに研究をすすめて行ってほしい。

(会長) 広く社会教育関係の各種団体で、ぜひ協議していったらよいと思う。新しい職員からも 1 言発言してほしい。

(事務局) 利用者だったときは、郷土資料がどこにあるかも知らなかった。若い世代に向けて、ホームページなどの充実も進めて行けたらと思う。

(事務局) 地域おこし協力隊としてきたので、地元の方の活動を紹介したり、他の協力隊員と連携したりして、江府町を盛り上げていけたらと思っている。図書館をどうしたら活用していただけるかを考えていきたい。

(会長) 今の方向を進めていただけたらという委員さん方のご意見だったと思う。委員の皆さんには、今後も江府町図書館にぜひ関わっていただきたい。視察研修会にも、委員の方にも参加してもらって、他の図書館を見ていただければと思う。